

第4回四日市市美術展覧会 審査講評

【日本画部門】

今年の出品作品は昨年より点数が減ったものの、真面目に一生懸命取り組まれた作品が多く、見応えがありました。

市長賞の〈穂高岳〉は、作者の山への想いが伝わる力作で、積雪の配色や遠近感などご自身のもつ絵画技術がいかに発揮されています。

市議会議長賞の〈春聴〉は構図が素晴らしく、色味豊かに描かれています。

教育委員会賞の〈スーパーのある街〉は優れた描写力で建物を丁寧に描いており、自らの世界感が表現されています。

出品作品は力作が揃い、きちんとした構成力を持つ作品が多く見受けられました。

今後も出品者の皆様のご活躍を期待いたします。

【洋画部門】

市民展の良いところだと思いますが、モチーフを忠実に写しとろうとする方から、すでに独自のスタイルを確立されている方まで、さまざまな段階の作品がありました。初心者の方は鑑賞する人に新たな世界を感じてもらえるよう、今後も継続して取り組んでください。すでにご自身のスタイルをお持ちの方も、時に表現を把え直し、後進の方をけん引していただければ、より深味が出るものと信じます。

【彫刻部門】

伝統的な作風のものから現代的なものまで、様々な作品が揃いました。

それぞれ作風は異っても、作品にかかる熱意と創作の喜びが伝わってくる秀作ばかりです。特に市長賞の作品は、金属の溶接という力強い技法で、馬の生命力や躍動感が見事に表現されています。

出品者の方々の益々のご活躍を期待します。

【工芸部門】

第44回の出品総数は53点と昨年同様でした。

その中でも特に目を引いたのは、市長賞の草木染料を用いて茜空を表現された作品です。

イバラの生息感を金銀で補色する手法が日本の文化を感じさせる良い作品でした。

市議会議長賞の連角黒釉壺は、動的あるいは静的な発想から制作されたのか、審査員一同関心を寄せました。壺のフォルムが独特で、口縁部のやわらかさの表現に趣きを感じさせる作品でした。

来年も力作の出品を期待します。

【書道部門】

総出品点数は昨年よりも10点増加し、若い高校生の力作もあり、今後は楽しみとなる回でした。

市長賞の作品は、選文が良く、紙の色と作品構成がよくマッチした格調高い作品です。

市議会議長賞の作品は、技術がしっかりして安定感があります。字形に変化が多く、余白とうまく調和した秀作です。

教育委員会賞の作品は、多字数を二連にした力作です。書きだしは少し大き目ですが、最後までリズムが崩れることなく一貫性のある作品です。

【写真部門】

応募作品は、日常生活の一コマをスナップした「私的」なもの、色彩あるいは色調の反転によって画面構成に工夫をしたもの、動物写真やさらには海外に取材したものまで、多様な作品を見ることができ、審査は楽しいものとなりました。

市長賞《出番待ち》は、スナップによりながらも、プリントのモノクロの諧調に工夫し、優れたポートレートにまで仕上げられています。

市議会議長賞《梅の里》は、色づいた梅の花の美しさ、鮮やかさと、川の水面に浮かぶボートと人の対比を上手く捉えています。

その他、シャッターチャンスを活かし、瞬間を捉えた写真作品は、自然や対象に対する優れた観察眼を感じさせました。

対象やテーマの幅をもう少し広げてみてはどうでしょうか。街の歴史や民俗、伝統をテーマに取材したものも見てみたいと思います。

また、連作あるいは組み写真による表現にもチャレンジしてもらいたいと思います。そして、制作の方向性としては、見る者の心が和むような表現を続けてもらいたいと思います。